

名前もシンプルな「鈴木一郎」という元プロ野球選手の生き方は、幼児教育を考えていくとリンクすることがあります。こんなコロナ禍であるからこそ、シンプルに考え選択していくことが、実は「幸せ」を作り出し、それによって自分も「幸せ」を感じられる身近な方法なのかもしれません。

今回は、トヨタの入社式で「鈴木一郎」選手が新入社員に送ったメッセージをご紹介します。日々行っている保育とリンクいたしました。

—常に新しいことに挑戦する重要性— by イチロー

トヨタが **woven city** という新しい街を作る、先日そんなニュースを見て、僕は社長がこの会社のバッティングフォームを変えようと思われていました。現役時代、僕は毎年のようにバッティングフォームを変えてきました。たとえ首位打者をとったり誰よりもヒットを打ったとしても、次の年には変えています。更に前進するためには、常に新しいチャレンジが必要だと信じているからです。その結果、前の年よりも成績が下がったり、上手くいかなかったこともたくさんありました。振り返ってみると、そのほうが多いのかもしれません。でも僕はこう思うのです。

成長とはまっすぐに目的地へ到達することではないんじゃないか、前進と交代を繰り返して、少しだけ前に進む、つまり後退も成長に向けた、大切なステップなんじゃないかと。

「変える」ことはとても勇気のいる事です。この会社が今、モビリティカンパニーに変わろうとしている。そのために、そこで働く一人ひとりがバッティングフォームを変えていく。皆さん、とてもチャレンジングな時期に入社されたな、と僕は感じています。自身を成長させる、大きなチャンスだと信じて、トヨタという大きなフィールドに飛び込んでいってほしいと願います。

—これからの教育に対する考え方— by イチロー

昨年末、僕は学生野球の指導に必要な研修を受けてきました。そこで感じたことがあります。それは、指導する側より、指導される側のほうが、力が強くなっているということです。「これも時代だから」という一言で片づけていいのでしょうか？僕は大変憂慮しています。上司や先輩から教わることには、大切なことがたくさんあります。それを謙虚な気持ちで受け止めてほしい。

厳しく指導することが難しい時代に、じゃあ誰が教育をするのか？

それは、自分自身です。

先が見通せない時代で、だれかが正解をもっているわけではない。

だからこそ、自分で自分を教育する。

それが必要不可欠になっていると感じています。

野球というフィールドで世界の頂点を体感させたイチロー選手だからこそその言葉。

園のお子様方が成人し、社会人になった時に「自分で自分を教育」できる人であってほしいと強く願っております。そのために、一生の間で感性が大きく育つ幼児期に、自分で自分のことを先生と一緒に、保護者様と一緒に「共育」できる教育を行い、「自律型学習者」のお育ちを見守りたいと思う、2020年の年の瀬でございます。良いお年をお迎えくださいませ。